

津田校区だより

発行所
津田校区
コミュニティ協議会
福祉委員会
広報部

穂谷三之宮神社と

津田の歴史ものがたり



一 はじめに

穂谷は、奈良県生駒市と京都府京田辺市とも接していて、枚方市の最も東に位置し、平安時代には、水を貯蔵する「水室」が置かれていたと伝わっています。そして、穂谷集落入口の穂谷川溪谷右岸に、素盞雄大神などを祭神とする三之宮神社が鎮座しています。

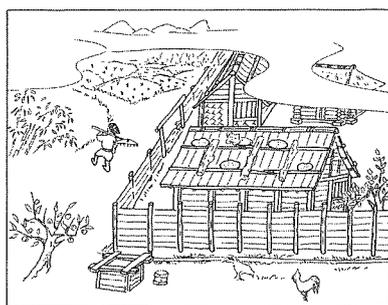
また、穂谷川右岸の三之宮神社と現在の穂谷公園周辺には、今からおおよそ一万年以上前から人々が生活していたと考えられる穂谷遺跡があります。一九五二年、故片山長三先生が調査されたことよって明らかになりました。

その後、穂谷公園が整備されることになり、一九九〇年に再度調査され、縄文時代早期～中期前半の土器と、50点以上の石鏃・皮剥用の石・敲き石などが見つかりました。人々の生活が営まれた中心は、公園から南方に南北に並ぶ、目測で長さ約3・5m?もある二つの巨大な屋形石が鎮座する三之宮神社付近ではないかと思われます。

二 津田トツパナ遺跡

大阪府立枚方津田高等学校が

開校される前に、一九八五～一九八六年にかけて発掘調査が行われ明らかになった遺跡です。



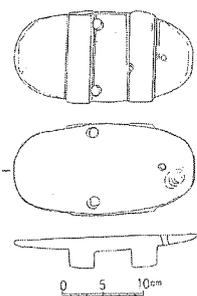
館の想定復元図

主なものは、平安時代前半頃の2間×3間の掘立柱建物跡、井戸、一辺約80cmの掘形をもつ総柱建物跡(倉庫)です。

鎌倉時代前半頃のものとして、1間×5間、2間×3間の掘立柱建物跡、2間×2間の総柱建物跡(倉庫)があります。これらの建物跡群は、周囲を幅約40cm、深さ約20cmの溝と柵列で囲まれた範囲内に、東西・南北に主軸を置き整然と配置された大規模なものです。東西が約18・5mあり、東と北に館の裏門があったと推測できます。青磁や白磁が多く出土しているこ

とから「在地の有力な領主の館跡」ではないかと推定されます。

この館跡の北側にあった直径約1・4m、深さ約2mの素掘りの井戸から、多くの土器類・漆器碗とモミ・桃・梅などの種子、非常に珍しい縦17・8cm、幅4・7cm、厚さ4mmで二ヶ所に穴があった木簡(墨で書かれた木札)が出土し、東側の井戸からは下駄が見つかっています。



出土下駄実測図

三 墨で書かれた木簡(木札)

木簡は山形で右側には墨で文字が書かれ、上と下の二ヶ所に径約3mmの穴があいています。一行目は、「一 屋形山札事花押」、二行目は、「右預方城山國中奈良住人國東」と。

近世初期の記録とされる穂谷三之宮神社に伝わる『穂谷三之宮大明神年表録』の記録に、鎌倉時代の嘉祿二年(1226)、中原惣兼と津田村住人が願主と



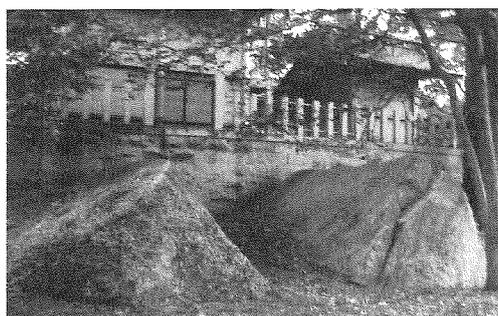
木簡の赤外線写真

なり三之宮神社を修復したとあり、津田村の領内の屋形山を城州内(山城國)の山子に当てがったと理解することができそうです。城山國とは、山城國(京都府南部)のことです。津田村の領内にある屋形山への出入りを中奈良(現在の八幡市) 住人である山子(山仕事に従事する人) 國東に許可したことを示す木札ではないかと考えられます。

四 まとめにかえて

これらのことから総合的に考えてみると、平安時代末期から鎌倉時代・室町時代にかけて穂谷三之宮屋形大明神を大切に祀り、津田トツパナ遺跡で明らかになった館跡に居住し津田周辺を治めた在地の領主は、中原氏ではないかと考えてはいけないでしょうか？

(枚方歴史を楽しむ会 代表 三宅 俊隆)



巨大な屋形石 (南から)

ミニ運動会を開催

11月30日(日)、津田小学校区コミュニティ協議会主催のミニ運動会を開催しました。当日はお天気にも恵まれ、子どもからお年寄りまで多くの方にご参加いただき、なごやかな雰囲気の中で楽しい一日となりました。

会場では、世代を超えて元気に走り回る姿や、ご家族・お友だち同士で声を掛け合いながら競技を楽しむ様子が見られました。「バケツレース」「借り物競争」「玉入れ」など、どの種目も笑顔にあふれ、会場はたくさんの方の笑い声に包まれていました。

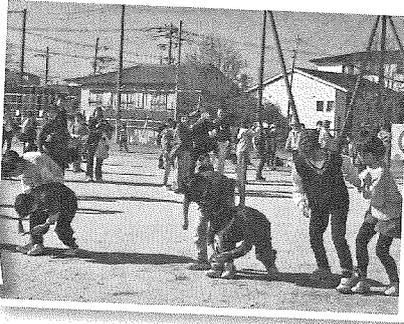
今年も津田小学校の校長



先生・教頭先生をはじめ、数名の先生方にご参加いただき、学校と地域が一緒になって楽しめる運動会となりました。卒業生と元担任の先生がペアを組んだ二人三脚では、久しぶりの再会を喜びながら息を合わせてゴールを目指す姿が印象的で、会場から温かい拍手が送られました。

皆さんが一生懸命競技に取り組んでくださったおかげで、ケガもなく無事に運動会を終えることができました。当日の運営を支えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

今回の運動会を通して、地域と学校、そして世代を超えたつながりがさらに深まったように感じています。これからも、津田小学校区がより楽しく住みやすい地域となるよう、さまざまな活動を続けてまいります。今後とも温かいご支援とご協力をよろしくお願いたします。



津田小PTAの解散と

ボランティア団体の立ち上げ

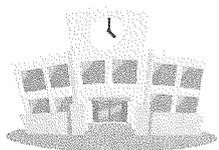
今年度ももちまして、津田小学校PTAが解散することになりました。

解散に至った経緯としては、昨年度に保護者に向けて、PTAの加入・非加入の意思を確認したところ、非加入が70%以上でした。今年度は立候補した2人の活動となり、学校と相談のうえPTAとしての活動は休止し、PTAを残すべく、模索して参りました

が、解散せざるを得ない結果となりました。地域のみなさまが、子どもたちのために日々活動して下さっている中で解散となり、子どもたちのための活動をしてきたPTAがなくなるというところに、正直に申しますと、心苦しさや悔しさがあります。しかし一方で、共働き夫婦の増加、コロナ禍などを

経て、PTAのあり方に疑問を持つ方も増えました。そこには一定、共感できる気持ちもあります。PTAはなくなりますが、子どもたちが健やかに、安心して育っていくために、考えていく者がいなくなつたわけではありません。

これから、有志が集まるボランティア団体を通じて、子どもたちのために継続可能な形で活動を模索していくことになりました。地域の皆様には、PTAの解散と、ボランティア団体の立ち上げのご報告をさせて頂き、今後の子どもたちの成長のために、お力添えをお願い致します。





第一次避難所：津田小学校で自主防災訓練を実施!



今年度も寒風吹く中、2月1日(日)の午前に津田校区の第一次避難所である津田小学校で、防災訓練を実施しました。

昨年度は天候が悪く、体育館のみでの開催でしたが、今回はお天気も良く、運動場と体育館を使ってフルメニューで実施できました。運動場では枚方東消防署による起震車体験や煙道体験、市上下水道部による給水車体験、市消防団津田分団による初期消火訓練をそれぞれ説明を受けて、体験しました。特に起震車体験では、部屋を模した車両の荷台に乗り、東日本大震災や阪神大震災の地震を体験し、震度7の揺れの怖さを実感しました。また、体育館では市消防団女性分団によるAEDを用いた心肺蘇生法の訓練や、NPO法人枚方市市民活動支援センターによるクイズ形式での防災学習を行いました。

当日は、伏見市長が激励に駆けつけられ、小さなお子さんからご高齢者の皆さんまで約150人が集まり、皆さんで真剣に防災に取り組んでいました。

訓練の後にはアトラクションとして災害時にも有効な『大声コンテスト』を行い、子どもも大人も普段の鬱憤を晴らすように大声を張り上げてもらいました。

ご協力いただきました関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

いつ起こってもおかしくない南海トラフ巨大地震や、市の東部地域にある生駒断層帯による直下型地震が起きれば、この地域でも非常に大きな被害が出ると想定されています。

今後も津田校区自主防災会(コミュニティ協議会)では、被害ができるだけ少なくなるよう取り組んで参りますので、各ご家庭でも、日頃から災害に備えていただくとともに、今回の様な訓練には自主的にご参加いただきますようお願いいたします。



去る11月1日(土)、津田小学校において「スマイルつだ」が行われました。前日までの降雨のため、当日は雨天時レイアウトとして主に校舎内を使用していた。当日は晴天に恵まれました。当日は晴天に恵まれました。参加人数は児童が234名、幼児64名、保護者146名、スタッフが95名と、総勢500名を超える人に参加いただきました。

青少年育成指導員のメンバーで「今しかできない体験を子ども達に。子ども達の笑顔のために」を趣旨に祭りの開催にあたって、今抱えている課題やこれから先のあり方について何度も集まり時間をかけ議論を重ねた中で意思統一を図ることに注力してきました。このようなイベントでは参加者一人ひとりが主役ではないと楽しくありません。特に誰かが人任せであったり、独善的であること



「みんなで楽しもうスマイルつだ」開催のお礼

とで本来の目的や達成感が見えにくくなってしまおうと感じ、会議の参加者が発言し、発言に責任を持ち行動に移すまでの経過を大切にしようと思いつきました。もちろん「スマイルつだ」という名称も子どもたちの笑顔を第一に考え、保護者を含めた大人も一緒に盛り上げられたらとの思いで、皆で話し合っただけで付られました。

当日はイベントでよく見かける「〇〇さんに聞かなわからへん」「〇〇さんどい?」といったスタッフの方がバタバタ走り回る姿が減り、皆が持ち場で自身の役割を發揮できていたように感じました。子どもも、一緒に参加された保護者も、スタッフもいきいきとされていたように感じました。



この津田という地域がいつまでも「思いやり、助け合

い」の気持ちをもとに皆で協力し合い生きていける場所であるためには、「次の世代になすりつける」「誰かに押し付ける」「無関心」から「未来につなぐ」「共に分かち合う」「自分ごと」という気持ちが大事なのではないでしょう。一人ひとりが主役として自分の人生を豊かに生きていくために、今はできなくても、できるようになってからでも遅くはありません。少しづつ地域の輪を拡げ、一人の小さな力を皆で大きくできたらいいなと思っています。

最後に、大変お忙しい時期にもかかわらず今回の催しにご賛同・ご協力くださいました全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(川原 仁寿)



いきいきサロン「干支作り」

○日時…2025(R7)年

①11月12日(水)

②11月14日(金)

○場所…①府営住宅集会所

②生涯学習市民センター

○参加…①約20名②約40名

一人暮らし高齢者の集いの場として、二ヶ所に分かれて午年の干支色紙の制作をしました。

昼食後、少し休んでから材料が配布され、点検作業や作り方の注意事項の説明をしました。

干支作りは、毎年楽しみにされておられる方が多く、説明書を見ながら完成

に向けて、熱心に作っておられました。わかりにくい所や、やりにくい所などは担当民生委員さんにお手伝いしてもらっている方々もおられました。

お互いに教えあいながら全員完成しました(拍手)。「何事も、ウマく行きますように…」願います。



新任・退任のお知らせ(敬称略)

〈新任〉宜しく申し上げます

- ・保護司 山大路 崇
- ・民生委員・児童委員 濱田佐和子
- 山田 優子
- 上武真知子
- ・主任児童委員 青島有諭子

〈退任〉お世話になりました

- ・民生委員・児童委員 生嶋 良子
- 森本 長子
- 笠井 辰夫
- 川崎 一司

津田校区の人口・世帯数・高齢化率(65歳以上/人口)

(令和8年1月1日現在)

- ・男性 5,516人・女性 5,585人 計 11,101人 (-8人)
- ・世帯数 5,568戸 (+55戸) ・高齢化率 29.6% (+0.1%)
- ・65歳以上 男性 1,453人 女性 1,830人 計 3,283人 (-15人)

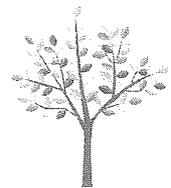


令和7年 地域福祉募金に

ご協力ありがとうございました。

令和7年度 地域福祉募金 352,170円 (令和7年12月10日現在)

※昨年度は359,230円でした。※令和8年度助成額は176,085円(予定額)です。



その他の募金

—ご協力ありがとうございました—

赤い羽根共同募金 154,085円

歳末助け合い募金運動 153,445円



編集後記

片山長三氏の穂谷遺跡の発掘で、この辺りを縄文人が跋扈していたことを想像すると、歴史のある里の思いを深くする▼今後もミニ運動会で、地域の人々のつながりが増し、防災訓練で「もしもの場合」の備え意識の向上を図りたい▼PとTの協力で子ども育てを共に考えたい。教員だった私を育ててくれたのはPだったと振り返って思う。